

常なる磐

つねなる いわ

令和3年3月15日(月)

◇ 卒業証書授与式に向けて① 「6年生を送る会」



遠目から見れば変化がないように見える桜階段の「ソメイヨシノ」であるが、梢のつぼみは、日に日に膨らみを増し始めた。

19日(金)に迫った【卒業証書授与式】の開花は難しそうだが、今学校は、自然も足並みをそろえるなど、卒業色一色である。



5年生が中心となって開催した10日(水)の【6年生を送る会】は、本校ならではの温かさのあるよい会であった。

学校の大黒柱である6年生の姿がなくなることは、確かに寂しさはある。その一方で、この卒業期に5年生は急速に逞しさを備える。進級に向けた逞しさであり、最上級生なるための準備である。



特別席の6年生の右前方に掲げられたのは、全身まで描かれた等身大の似顔絵。水彩画で描かれた似顔絵は、ご覧のように「そっくり」である。

様々なデジタル機器がそろう中で、手作りのアナログであるのが、味わいが出て、またいい。何より「温かさ」が加わる。そして「上手い」。制作を一手に引き受けた5年生の絵画力・描写力には、本当に驚かされる。

バランスがよく、指先までしっかり描けているのには理由がある。似た体格の5年生がポーズを取り、体の線をなぞった下絵をもとに描くから、まるで動き出しそうなリアルさがある。





ちょうど5年生が顔を書いている場面を見たことがある。拡大写真を横に置いて、穴が開くほど写真を見ながら描写していた。

よく見て丁寧に描くから、耳の細部や髪の毛の流れまで描き表せている。頬も薄く紅が入り、生気に満ちている。似顔絵にT君のよさが出ているのは、描き手（5年生）の感謝の表れなのである。

誰かのために何かを行うのは、楽しい。喜んでもらえる姿を想像すると、やる気が出る。それが、より身近な相手であればあるほど、意気は高まる。

お返しを期待しない、ただ、やりたいからやる「身近な人への無償の努力」は、最終的に自分の心の力となって自分のもとに帰ってくる。

5年生が6年生のために心を込めて行ったことは、5年生に見えない力となって戻ってゆく（帰ってくる）のである。

6年生は、去年、卒業生におけた感謝の思いを託そうと、同じように力を尽くしている。だから6年生は5年生の思いも分かる。

言葉を交わさなくても分かり合える。ここが「いい」、ここが「大事」。

この似顔絵。卒業式後には、本人に贈られると聞いた。卒業証書は6年間頑張り続けた貴重な証であるが、似顔絵は、他校にはない、何よりの贈り物である。



会の最後は、6年生の感謝の言葉。込み上げる思いで言葉も詰まるが、ちゃんと思いを伝えきることができるのは、流石6年生。

来月には、私服が制服に代わる。

外見は変わっても、中身は変わらない。しっかりやれると断言したい。



そして横断幕。これも5年生を中心に全校児童の作成。タイムリー性もある。

「笑顔」でありがとうを伝えたら、「嬉し涙」が返ってきた「よき会」だった。